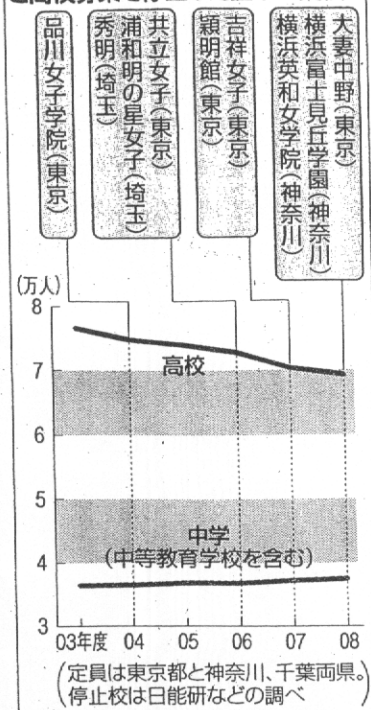


首都圏の私立中学・高校の募集定員と高校募集を停止した主な一貫校



中高一貫私立校

高校入試枠 細る窓口

進学実績向上へ

「6年」に一本化

高校からの募集をやめる私立の中高一貫校が大都市圏で相次いでいる。少子化により学校間の競争が激しくなる中、早い段階に囲い込み、6年一貫教育で進学実績を伸ばしたいという思惑や、中高一貫組と高校からの入学組とで授業の進度を変える「二度手間」を嫌う風潮もある。公立中からは「優秀な子が私立に流れてしまう」との嘆きも聞える。

(根本理香、長谷川潤、石木歩)

大妻中野(東京都中野区)は08年2月の入試から高校募集を停止する。かつては高校だけだったか、少子化が進み、早く募集しないとやっていけない」と95年から中学募集を始め、中学からの割合を増やしてきた。有賀康修校長は「公立にも

一貫校が生まれ、一貫教育のよさが広く認められてきている。首都圏での中学受験ブームも追い風になった」と話す。高校募集をしない学校は「完全中高一貫校」とも呼ばれる。首都圏に約300校ある中高一貫校のうち70校ほどある。日能研グループのNTS教育研究所によると、ここ数年、中堅進学校が完全中高一貫校化。中学から優秀な人材を集めることで、公立高校の「滑り止め」から脱皮する狙いがあるとみている。この傾向は募集定員にも表れている。03年度以

降のデータが完全にある東京都と神奈川県、千葉の両県でみると、少子化傾向にもかかわらず中学では08年度までに千人ほど増えたのに対し、高校(全日制)は7千人以上減った。

中学受験 6人に1人 1都3県

東京、神奈川、千葉、埼玉の1都3県での今春の私立・国立中を受験。08年度は、模擬試験への参加状況などからみて5万2500人になると予測。小6の総数は約29万6千人に減るため、受験率は17・7%に上昇する。

でも高校があるという甘い思いは断ち切り、カリキュラムも一新した。これで失敗したらあとはない」と背水の陣で臨む。高校入学組と6年一貫組を同時に抱えると非効率という面もある。09年度から募集を停止する中村(東京都江東区)では英語と数学の授業が別だ。「二つカリキュラムがあると指導力が分散してしまう」と堀井勇校長。今後は、高2までは受験科目にとらわれず幅広い教養を身につけさせたいという。創立120年の伝統校で、06年度から停止した親和女子(神戸市)の中川俊二校長も「高校入学組は学習でつまづくことも多い。かといって補習をすれば部活動ができなくなり、周囲となじめなくなる」と話す。しかし、募集停止には問題もある。09年度から計画している愛知淑徳学園(名古屋市中区)では似たような境遇の生徒ばかりがずっと一緒にいることで、社会性が欠如することを心配する声も上がったという。東京都中学校進路指導研究会の関本恵一会長は「クラスを引っ張る優秀な子が私立に行ってしまうと、公立中はリーダーを育てるところから始まらなくてはいい」と話す。高校受験の選択肢が狭まることも懸念している。